

学校経営方針(中期経営目標)	前年度の成果と課題	本年度学校経営の重点(短期経営目標)
<p>本校の教育テーマ「国際教育」「環境教育」「表現活動」を相互に関連づけて推進し、グローバルな視野を身に付け、主体的に生きる力を育み、世界に発信できる人材を育成する</p>	<p>(1)北稜ならではの国際教育  <b>■ 成果</b>                      ・全校体制で国際教育を推進し、日常の中で国際性を感じられる学校文化が形成されつつある。                      ・「北稜ならではの留学プラン」を継続し、25名の生徒が参加した。                      ・オーストラリア研修旅行では、ホームステイや現地高校生との交流を通して多様な文化に触れ、生徒の主体性を育むことができた。  <b>■ 課題</b>                      ・留学や海外研修旅行の意義をより深く理解させるため、事前学習のさらなる充実が必要である。</p> <p>(2)まなびの森、北稜  <b>■ 成果</b>                      ・授業のICT化が進み、授業内での活用場が増加した。                      ・観点別評価が日常の活動の中で定着しつつある。                      ・総合的な探究の時間「北稜CANVAS」では、教職員研修や相談会を通して指導に関する共通理解が深まった。                      ・読書の時間において、「ワタシの1行」への取組を通して、読書と表現活動を結びつけることができた。                      ・「7組受験チーム」において、動機づけや学習習慣の定着に一定の成果が見られた。  <b>■ 課題</b>                      ・探究活動において「自分ごと化」が難しい生徒を主体的に学ばせるための仕組みづくりが必要である。                      ・7組受験チームでは、モチベーションを維持し、より高い目標へ挑戦できるアプローチが求められる。</p> <p>(3)多様性の森、北稜  <b>■ 成果</b>                      ・特別支援教育チームを組織し、関係機関と連携しながら合理的配慮を行い、適切な支援を提供することができた。                      ・遅刻指導では、登下校時の声かけを通して、生徒が学校生活を前向きに送れるよう支援することができた。                      ・一般開放2年目となる北稜祭では、生徒の主体的な取組が定着しつつある。  <b>■ 課題</b>                      ・遅刻指導について、より効果的な方法を検討する必要がある。                      ・北稜祭と「北稜CANVAS」を連携させることで、さらに生徒の主体性を高める仕組みづくりが求められる。</p>	<p>(1)「北稜ならではの国際教育」  <b>京都から世界へ挑戦する学校へ</b>                      ○「北稜から世界に果敢に挑戦する力」を育む国際教育を、全教科・全分掌で体系的に展開する。                      ○海外研修旅行を通して異文化理解を深め、国際的な視野を育む国際教育を充実させる。                      ○交流行事や海外研修旅行と連動した「使える英語」を育成する英語科指導を確立する。                      ○国内にいながら生きた国際交流を可能にするため、留学生・訪日高校生との交流を充実させる。                      ○「北稜ならではの留学プログラム」を充実させ、国際的な学びの機会を拡大する。</p> <p>(2)「まなびの森、北稜」  <b>学ぶ喜びを実感し、自立した学習者を育てる学校へ</b>                      ○授業を学校教育の中心に据え、確かな学力を育む取組を全校で推進する。                      ○「7組受験チーム」の内容を充実させ、その成果を校内全体へ波及させる。                      ○総合的な探究の時間において、国際教育・環境教育・表現活動と関連付けた探究活動を展開する。                      ○情報社会を主体的に生きるための判断力と責任ある情報活用能力を育成する。</p> <p>(3)「多様性の森、北稜」  <b>多様性の中で主体的に生きる、「品格ある北稜生」を育てる学校へ</b>                      ○生徒が主体性を発揮し、表現する力を育む場として、学校行事、とくに文化祭の充実を図る。                      ○他者と協働する力を育む教育活動を計画的に実施する。                      ○「生徒指導提要」の趣旨に基づき、発達支持的生徒指導を組織的に行う。                      ○一人ひとりのニーズに応じた支援を早期に行うため、特別支援体制を充実させる。                      ○多様性を尊重する人権学習を充実させる。                      ○主体的に環境に配慮した行動を育む環境教育を推進する。</p> <p>(4)「持続可能な教育活動の実現」  <b>生徒と教職員がともに時間を大切に、持続可能な教育活動を実現する学校へ</b>                      ○ノー残業デー・ノー部活デーの実施やICTの活用により、教職員の働き方改革を進める。                      ○安定した学校運営に向けて組織を整備し、働きやすさと業務の平準化を図る。                      ○地域連携を充実させ、「地域の課題解決力、京都No.1校」を目指す。</p>

令和8年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
教務部	授業規律の確保と授業内容の充実を目指す	○生徒支援部の遅刻指導と併せて、遅刻状況の把握・遅刻が続いている生徒への面談などを積極的に行い、1限開始時の出席率向上を目指す。 ○ICT活用や公開授業などを通して、授業内容の充実を図る。			
教育推進部	「北稜ならではの国際教育」、「まなびの森、北稜」、「多様性の森、北稜」の活動を面白そう、楽しそうという切り口で切り取り、わかりやすく中学生や保護者等に伝える。	各分掌や部局活動と連携を密にして、取材の回数を増やし、学校HPやSNSの発信の回数を昨年度の3倍頻度(年間1000件)にする。			
		中学校や塾との連携を密にしたり、ポスターを店や施設に貼ってもらったりして、北稜の教育活動を知ってもらう機会を増やす。年間50件の訪問を目指す。			
国際教育	従来の国際教育の取組を発展させ、北稜ならではの国際が文化となるよう、国際教育をより進めていく。	国際交流、留学生の受入を充実させ、日常的に身近に国際を感じられる環境を作る。交流行事の準備や事前学習をさらに充実させ、全教科・全分掌で国際教育を体系的に展開する。			
		北稜ならではの留学プランを継続し、国際的な学びの機会を提供する。参加した生徒が他の生徒と経験を共有し、国際交流のリーダーとして活躍できるような環境を整える。			
探究活動	「答えなき時代」において生徒が自ら問いを持ち、自走できる力を育む探究を学校教育の中核に位置づける。1・2年を貫く系統的カリキュラムを確立するとともに、属人的でない持続可能な推進体制を構築する。	○1・2年(2・2・0)の探究カリキュラムを統合的に整理し、「マイテーマ型」「伴走型」を軸とした年間計画を明文化する。 ○探究部長(主任)の業務を整理・可視化し、役割分担と年間運営スケジュールを明確にすることで、分掌として継承可能な体制を整える。 ○指導資料・評価規準・実践事例を蓄積し、次年度以降へ引き継げるアーカイブを構築する。 ○推進部内での情報共有を強化し、探究の視点を学校魅力化・広報とも連動させる。			
生徒支援部	発達支持的生徒指導の組織的展開	○段階的・継続的な生活指導 ○特別支援教育会議と教育相談会議の体制強化 ○メリハリのある身だしなみ指導の実践			
	表現活動と環境教育の充実	○北稜CANVASと連携させた北稜祭の展開を通して主体性と表現活動を伸ばす。 ○積極的な部局活動や生徒会活動をもとに、生徒自ら行事運営に携わることで、主体的に生きる力を育む。 ○学年を横断した環境教育や地域との連携を通して、主体的に環境に配慮した行動を育む。			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
進路指導部	「自律的・主体的な学び、進路選択」を目指した進路指導体系の構築	○自律的・主体的に学ぶ「大学受験チーム」を校内の学習リーダーとして育成し、その効果を他の生徒にも波及させる。 ○模試の成績向上など、結果にこだわった学習指導が展開できるように、データ分析を行い、教職員で共有する機会を設ける。			
		各学年での進路学習の様子や模試の申込、進路希望調査の実施などの進路情報をスタディサブリ等を利用して積極的に発信することで、生徒・保護者に進路について考えたり、コミュニケーションをとったりすることを促す。			
図書部	「学び」の場であるとともに「生徒の居場所」となれる魅力ある図書館づくりを行う。	各学年・教科・分掌と連携しながら、計画的に生徒の読書習慣定着に向けた取り組みを行う(読書週間、読書の時間の設定、定期的な新刊案内、ニュース発行など)。			
		図書委員会を中心に「読書」の楽しさ・大切さをイベントだけではなく、日常の活動を通じて全校生徒に還元させる(新聞「びぶりおてーく」の紙面充実など)。			
事務部	生徒が学習や部活動等に主体性を発揮しながら挑戦できるような学校機能の充実に貢献する。	老朽化した施設設備の改修等を持続的かつ計画的に実施することにより、生徒が過ごしやすい場を作るとともに、引き続き予算の効率的な執行と経費節減を心がけ、教育活動のさらなる充実に向けて、他の分掌や教科と連携を密にししながら効果的な予算執行を行う。			
第1学年部	主体的・自律的に行動し、「自分を、他者を大切にできる生徒」を育成する。	本校の教育の柱となる活動を、国際交流委員、環境委員、北稜祭実行委員などの生徒主体で、他者のことを考えながら企画・実行・振り返りができるよう支援する。			
		基本的な学習習慣・生活習慣の確立を目指す。また生徒からのサインを見逃さず、家庭との連携を密に取ることで、継続的に生徒の様子を見守り、注意喚起を促していく。			
第2学年部	国際交流において、表現力・コミュニケーション力・国際感覚を養い、主体的・自立的に行動する生徒を育成する。	国際交流において、日々培った「使える英語」でコミュニケーションを図る。そして、オーストラリア研修旅行を通じて、多様な文化や習慣を肌で感じ、生きた英語に触れ、自己表現ができる生徒を育成する。			
		生徒らが節度を持ち、周囲を思いやった行動がとれるよう、授業だけでなく学校行事などあらゆる場面で粘り強い指導を行う。			
第3学年部	学校行事に主体的に取り組み、試行錯誤することで思考力・判断力・表現力を伸ばし、卒業後の社会で生きる力を身に付ける。その経験や力をいかして希望進路実現をさせる。	生徒が遠足・北稜祭・国際交流事業に主体的に取り組める環境づくりを心掛ける。さまざまな経験をとおして、挑戦し、成長していける環境を整える。			
		春の面談から生徒の目標を把握し、自発的な進路研究を促していく。進路指導部とも連携し、適切な時期に適切な進路情報を生徒だけでなく保護者にも提供する。			

令和8年度 府立北稜高等学校 学校経営計画(スクールマネジメントプラン) (計画段階)

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
国語科	「授業中心主義」を国語科が牽引し、読解力・思考力・表現力の基盤を確実に育成する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○ICTを効果的に使いながら、個別最適な学びと協働的な学びを両立させる授業を構築する。</li> <li>○探究的な学びを支える、問い・要約・論述などの言語スキルと他者に伝える力を授業の中で育成する。</li> <li>○7組受験チームを担う教科として、指導法を教科内で共有し、より持続的で効果的な方法を検討する。</li> </ul>			
地歴公民科	地域を起点としてグローバルな視野を養う学びを、科目の特性を活かして展開する。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○グローバルな地理的・歴史的認識の下、同時代の世界、周辺諸国の動向や関わりに注目した授業を展開する。</li> <li>○地域社会との関わりのなかで、主権者意識を育み、SDGsの目標達成をめざす教育指導を実践する。</li> </ul>			
数学科	基礎学力の定着を図るとともに、数学に対する興味・関心を高め、論理的思考力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○丁寧な授業準備を通して、生徒が「わかる」授業を日々実践する。</li> <li>○毎時間の学習目標を明確にして授業を進め、週末課題や小テスト等によって習熟度を定期的に把握する。</li> <li>○課題の提出を徹底させることで、学習内容を理解できたという達成感を生徒に持たせる。</li> <li>○「7組受験チーム」に参加している生徒に対し、模試対策や数学検定対策、進路講話を通して、大学入試に必要な学力の向上と進路意識の醸成を図る。</li> </ul>			
理科	基礎学力の定着を図るとともに、自然現象への興味・関心を持たせ、科学的思考力を育む。	<ul style="list-style-type: none"> <li>○学習目標を明確にして授業を進め、問題演習や小テスト、振り返りにより習熟度を定期的に確認する。</li> <li>○課題の提出を徹底させ、定期考査ごとに生徒自身で学習課題を見だし、改善できるようはたらきかける。</li> </ul>			
		<ul style="list-style-type: none"> <li>○身近な自然現象に関わる題材を各科目の視点で取り入れる。</li> <li>○視聴覚教材や実物等を提示し、学習内容への興味・関心を持たせる。</li> <li>○実験・実習でもICT機器を活用しながら協働的な学びを取り入れる。</li> <li>○以上のことを意識しながら環境(探究)学習も実践する。</li> </ul>			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
保健体育科	生徒が生活習慣・メンタルヘルス・性・薬物等の健康課題を自分事として捉え、体育理論と関連付けて運動・スポーツの意義や安全な実践を理解し科学的根拠に基づいて判断・実践できる力を育成するとともに、多様な運動を経験させ、仲間と学び合いながら技能向上と課題解決を図り、目標設定と振り返りを通して学びを調整する力を育て、生涯にわたる健康の保持増進と運動に親しむ態度・体力の向上につなげる。	<p>○保健分野(体育理論を含む) 課題設定→情報収集→比較検討→意思決定→振り返りの流れで学習を構成し、保健内容と体育理論(運動の効果・安全・生活への活用)を関連付けて扱う。資料・ICTを用いて根拠を示し、ケース検討やロールプレイで具体的な対処行動・実践につなげる。</p> <p>○体育分野 多様な運動を経験させ、単元のねらいと学び方を明確にしたうえで、ペア観察・助言や作戦会議を通して学び合いを日常化する。ICTで動きを可視化して自己評価と改善を促し、段階・選択課題で参加と達成感を保障し、用具・環境確認や段階的指導など安全配慮を徹底する。</p>			
芸術科	芸術の幅広い活動を通して、各科目における見方・考え方を働かせ、生活や社会の中の芸術や芸術文化と豊かに関わる資質・能力を育成することを目指す。	<p>○生徒のレポートやアンケートを用いて、目標の設定と振り返りをさせることにより、芸術における諸能力が高まったか自己評価させる。</p> <p>○主体的・対話的で深い学びの実現に向け、ICTやアクティブラーニングを活用した授業を展開する。</p>			
英語科	新学習指導要領に基づいた指導と評価方法の構築をさらに推し進める。	○指導方法や評価方法について、教員間での意見交換や情報交換を常に行い、学習指導要領に基づく指導と評価の実践をさらに推し進める。			
	「国際教育」の中心的な教科として、生徒の学習意欲の向上や「使える英語」の育成を目指す。	<p>○生徒全員を対象とした国際交流を充実させ学習意欲の向上を図る。</p> <p>○国際交流と連動させた取り組みや普段の授業だけではなく、英検をはじめとした外部試験など様々な学習機会を通して、「使える英語」を育成する。</p>			

評価領域 (分掌領域)	重点目標	具体的方策	評価		成果と課題
			項目	総合	
家庭科	「自立と共生」を軸に家庭生活で必要な知識や技術を身につけるとともに、暮らしと社会を結びつけて思考する力を身につけることを目標とする。	○必修の家庭基礎においては、基本的な知識を身につけその上でパフォーマンス課題を取り入れる。その際、AI の活用については依存しすぎないよう自身で思考することを徹底する。			
		○3年選択授業においては、実習を通して暮らしと社会を結びつけて考えられるような教材を考え実践する。			
情報科	探究や他教科と連動しながら、生徒が情報を適切に「選り・活かし・説明できる」主体的な情報活用力を育成する。	○探究・他教科のテーマと関連づけて生徒自身が課題を設定し、情報の信頼性を判断しながら資料を収集・整理・分析し、その根拠や目的を意識して他者に分かりやすく説明・発信する学習活動を実施する。			
総合的な探究の時間	1年生段階で生徒が「自分の問い」を持ち、探究を自分事として捉える基盤を確立する。また、2年生のマイテーマ学習へと接続する系統的な探究を通して、「主体性・協働性・創造性」を育成し、社会と関わろうとする態度を養う。	○1年生カリキュラムを再構成し、問いの設定段階を重視することで、生徒の興味・関心(Will)と社会的課題(Need)を結びつけ、「自分の問い」を形成させる。 ○探究のサイクルを通して問いの更新を促し、2年生マイテーマ学習の土台を形成する。 ○実践発表会を通して生徒同士が刺激し合い、問いの深化と社会への接続を図る。 ○職員研修と事例共有により伴走の在り方と評価観を共有する。			